

一、源村の成立にむけて

【史料1】御布達書

明治八（一八七五）年一月

（豎冊・表紙）

明治八年  
御布達書  
一月

至急 祠官 川嶋家隆

回章

極楽寺村始

於日吉神社本月十一日紀元節祭執行并説教午前七時村々参拜無洩御通  
達申進候也

明治八年二月七日

右祠官 川嶋家隆 印

右三度回章行先相分り

四小区 扱所 印

不申候間此分へ相添可被下候也

上極楽寺村 上布田村 植草村 雨坪村 酒造村 三ヶ尻村  
瀧沢村 瀧村 丹尾村 山田村 油井村

右村々役人御中

回章

当区扱所

東金町始下極楽寺村止り

種痘為説諭勸業掛り富田英信殿各村巡廻之上種痘所取設ヶ致二付而者

兼而御達有之種痘順序雛形ニ照シ未痘児名前取調来ル廿七日迄ニ無相  
違御差出し有之度、尤も取調之儀各村用掛り其組限リ一帳ニ取調無洩落  
様御注意可被成候也

二月廿三日

当四小区扱所

東金町 台方村 大豆谷邸 油井村 山田村 丹尾村  
瀧沢村 瀧沢村 上布田村 下布田村 上極楽寺村 下極楽寺村

右村用掛中

尚々此廻状不留置至急御順達回尾より御返却有之度候也

丙第九十六号

第八九大区 区长

同 各小区 戸長

今般第八九大区両取締所之儀合併、武射郡成戸町ニ改置候ニ付而ハ  
失火盜難其他取締ニ関スル一切之事モ同所開設之上者総テ従前之通り  
同所へ可申出旨区内無洩可相違候、此段相違候事

明治八年三月二日

千葉県令 柴原 和

甲第三十八号

明治七年県庁第三百八十号ヲ以テ各大区扱所エ宛テ相達候人民一般ノ  
事ニ係ル布達書類郵便線路并往復度数完備ノ日ニ至ルマテハ脚夫ヲ以  
通送候儀及布達置候処郵便線路増開及往復更ニ加等ノ儀モ稍相整候ニ  
付爾来郵便ニテ可相違、尤右税金ノ儀者県庁ニ於テ操替置追テ管内一般  
ノ民費ニ割賦可致候条此段爲心得更ニ布達候事

明治八年三月九日

千葉県令 柴原 和

回章 布田村 種痘所

至急

以回章得貴意候、今般布田村種痘所設立仕候間各村未痘児無遺漏書面之通御説諭、来四月二日第十一時御出頭可被成候也、但し御布告之通父母未痘児疾病之義者用掛承認ノ証ヲ添テ断出べし、再度以上罷出サル者ハ医師容体書ニ戸長ノ証ヲ添テ出へシ

明治八年三月廿七日 布田村 種痘所

下極楽寺村 上極楽寺村 上布田村 下布田村 雨坪村

植草村 瀧沢村 酒造村 三ヶ尻村 瀧村

右邨用掛御中

回章 第八大区四小区 扱所

東金町始メ

御一新以来道路掃除等之義ニ付度々御布達も有之、御承知二者可有之候得共当節春向ニ至旧弊有之場土塵芥等埋立肥土等取立来候得共道路掃除等宜敷無之二付、御説諭之上以来右様之義致候義御申聞候共不取用候ハ、無扱大区扱所江申出候間懇々御説諭有之度候也  
八年三月廿七日 第八大区四小区 扱所

小間子牧附村々

回章 極楽寺村

上布田村始

小間子牧犬防之者共江鑑札渡方之義兼而昨年中及御相議候節、名前書御差出之上議定書へ調印相成候もの共之外、会社へ直ニ犬防致度向申出候

もの共有之、依而鑑札渡方ニ差支候間、一応御相議之上取計申度候条、各邨犬防人名名ツ、確定之上印形御持参、来ル六日午前第十時揃、当村本極寺江御出会有之度回章至急御順達、從留其節返却可被成候也

四月二日

極楽寺村

猪野耕之介

山本次左衛門

上布田村 植草村 瀧沢村 三ヶ尻村 松之郷村 油井村

丹尾村 瀧村 山田村 中野村 富田村 上砂子村 下砂子村

右村々 用掛中

(上布田 猪野家 B・16・1)

【史料2】御布達書

明治九(一八七六)年四月

(豎冊・表紙)

明治九年  
御布達書  
四月十七日

回達

去二月第二十四号御達之通学資集積之義ニ付而者大区会議ニ於テ既ニ諸君審議セル処ニシテ学事至重急務ナルハ今更喋々ヲ俟タザル儀ニ付、資本集積等ハ前以夫々方法相設ケ着手相成候義二者可有之候得とも尚今般右説諭トシテ八木原十四等出仕殿去月該大区四小区ヨリ御着手、一

二三五八小区ヲ除ク之外悉皆集積追々当郡モ凡八分通集積候ニ付取束  
ネ次第不日該各小区工御巡回相成候、就テハ一二三五八小区扱所ニ於テ  
モ他区ノ模範ニ有之、且各邸風俗モ他区内ト異ニシテ稍醇良之村柄ニ付  
別シテ学事等ハ衆人ノ帰嚮セル土地ナレハ此程御達之次第ハ予テ熟知  
遵奉無論ト改候得共、万一御注意方行届ケス候テハ御同氏巡視ノ際用掛  
長農等大勢招集空シク数日ヲ費シ各自産ノ支障不尠ハ勿論扱所ニ於テ  
モ繁劇之際事務混雜可致ニ付、其前戸長并学事分掌副戸長衆ニヲイテ懇  
篤説示シ集積概則ニ照シ確實方法相設ケ左ノ雛形ニ倣ヒ届書取束置候  
様御取計有之度、別紙届書式相添此段及御回達候也

明治九年三月

第二十三番中学区取締

江口平兵衛

第八大区 五小区 三小区 八小区 二小区 壹小区

右扱所御中

右至急順達周止ヨリ御返却可有之候也

正副二冊

表紙認式

第二十三番中学区内

第何番或ハ 第何番 聯区第何番

何々小学校資本寄附金明細御届

第何大区何小区

何郡何村

学費寄附金明細御届

第何百何番第何何々小学校工寄附

或ハ 第何番 聯区第何番何何々小学校工寄附

第何大区何小区

何郡何村

一金何百円

何ノ誰 印

一金何十円

何ノ誰 印

以下準之 但シ半面五行ニ可認事

合金七百元 或ハ千円 或ハ弍千円

但シ本年四月一時出金壹割二分ノ利子ニテ村内身元ノ者工預ケ(注1)

或ハ望ノ者工貸付置、本年四月ヨリ毎月利子取立校費ニ充テ明治七

年県庁第四百五十号学費金規則ニ照シ(注2)取扱候事

(注1) 一時出金云々又身元ノ者工預ケ云々ト有之、則寄附候モノハ

身元ニ付寄付ノ者直ニ預置候訳ニ付人民誤謬無之様能々御

諭示有之度候

(注2) 七年第四百五十号条目中八年十一月四条五条刪去ノ御達モ有

之ニ付別テ御注意有之度候

右ハ今般何々小学校資本トシテ書面之金額寄附仕候ニ付、此段御届奉申

上候、以上

明治九年四月

右村用掛

何ノ誰 印

同 何ノ誰 印

右区学事分掌副戸長

何ノ誰 印

県令宛 同 戸長 何ノ誰 印

別紙之通り回達相成候二付及御達候也

各邸写取周止ヨリ返却有之度候事

九年四月十八日 第五小区 扱所

上極楽寺村 下極楽寺村 上布田村 下布田村

植草村 雨坪村 酒蔵村 三ヶ尻村

各邸 用掛中

達

回章 第八大区五小区 扱所

別紙之通布田種痘所ヨリ被申出候条、未痘之児無洩定日ニ差出し種痘請候様末々迄被申聞度及達候也

九年四月廿五日 第八大区五小区 扱所

植草村 雨坪村 武勝村 下布田村

上布田村 下極楽寺村 上極楽寺村

右村々 用掛中

昨八年一月以降布田村江種痘所御設置相成候处、方今遺漏之児有之不都合不尠旨御布告二付、未痘児并再三接之人員江篤と御設示被成下、左之定日午前第九時迄無洩種痘所ニ罷出候様未痘児父兄江御達し被下度、此段願上候也

明治九年四月 第八大区五小区 種痘所

扱所御中

定日

四月廿六日

同 廿九日

回章

植草村 猪野八右衛門 上布田村 井口辰五郎

上極楽寺村 金子忠五郎 下極楽寺村 戸田四郎兵衛

下市田村 並木巳之次 雨坪村 池野牛松

武勝村 並木房太郎 木原村 苗八右衛門 苗健次郎

右者野馬出生之時節二付、犬防人江談示之上夫々牧場手配犬防為致度候条、来ル五月二日午前第十時限り字たら坊へ出会候様、右名前之者共江御申聞度御依頼候、此廻章至急御順達留りより返戻有之度、此段申進候也

四月廿八日 極楽寺村

牧場世話人 山本次左衛門

右村々 用掛中 同 猪野耕之助

達

下総国元高野牧、十倉村矢作牧、十余三村地内ニ於テ勸業寮牧羊場開設二付、同所ヨリ四方三里以内村々畜犬野犬頭数、及里程付絵図面共至急差出方、客月廿六日附ヲ以再達相成候二付、此旨相心得至急調書可差出、尤右取締向取調トシテ吉田少属各小区江出張候条同入江打合、不都合無之様可取計旨、該小区戸長江至急可相達候、此段相達候事

千葉県令 柴原 和代理

明治九年五月四日 千葉県参事 岩佐 為春

前書之通御達相成候条、得其意至急取調御差出有之度、此段及御達候也

五月四日 第八大区五小区扱所

第八大区五小区扱所

御届

一里程三里拾町 当村ヨリ下総国高野牧迄

一飼犬無之

一野犬無之

右之通取調候処相違無御座候、以上

明治九年五月五日 第八大区五小区

山辺郡上布田村

用掛 猪野 丹蔵 印

回達

上布田村始

第八大区五小区 扱所

第八大区三小区 山辺郡大豆谷村

郷社 日吉神社 祠官 耆名

右者今般第八大区内祠官祠掌共更正配置候条、三四五六小区内ニ於テ郷社祠官一名毎村氏子共帰依之者相撰可申旨御達相成候ニ付、銘々撰挙為致、用掛ニ而投票取束ネ来ル十日限り可差出、此段相達候也

九年五月八日 第八大区五小区 扱所

上布田村 下布田村 武勝村 雨坪村

右村々用掛中

種痘

回章 第八大区五小区 扱所

瀧沢村始

種痘ノ儀ニ而ハ一昨明治七年以降度々御公布ニも相成居候処、今般猶又其御筋ヨリ御諭示も有之候ニ付、来ル廿九日布田種痘所江医員出張ノ上種痘為致候条、未痘之者無之様用掛組長伍長ニ於テ別段注意致シ、右日限通種痘所江罷越種痘為致候様可被取計候也

九年五月廿七日 第八大区五小区 扱所

瀧沢村 植草村 雨坪村 武勝村

下布田村 上布田村 上下極楽寺村

右村 用掛組長伍長 中

書面を以申上候、然者学校所新築之義去ル三十日弥棟上ケ相成、右ニ付時節柄ニ者候得共明六日ヨリ屋根普請ニ取掛リ候ニ付、各村一戸ニ付繩五十尋宛右場所江御差出し候様御取計ひ被下度、尤繩之義者可成丈上繩ニ致度、此段御願申上度候也

六月五日

猶以申上候、上布田ヨリ人足三人御遣し被下度、竹切入人足ニ付庖丁耆丁ツ、持参有之度候也

上下極楽寺 用掛

上布田村 下布田村 雨坪村

右村々用掛御中

(上布田 猪野家 B・16・2)

【史料3】御布達書

明治九（一八七六）年九月

（豎冊・表紙）

明治九年  
御布達書

九月一日

回章

下極楽寺村始

第八大区五小区 扱所

先般御達相成候大区会議員撰拵投票セシメ候処左之名面之者共其撰ニ  
相当リ候ニ付、区内無洩可相達旨其筋ヨリ御達相成候条、此段用掛ハ勿  
論各村撰拵人其他一般へ無洩通知可被致、此段相達候也

第八大区五小区

下極楽寺村 猪野耕之助

上極楽寺村 山本治左衛門

小間子牧附村々

回章 刻附御順達有之度候也

極楽寺邸始

小間子牧捕馬ニ付、土手修覆其他会社ヨリ被及昭議候廉々相議致度候条、  
来ル廿四日午前第十時揃各邸用掛中、無名代極楽寺邸本極寺江出会可被  
成候、回章迅速御順達周尾ヨリ御返戻有之度、此段及御達候也

九月廿一日

小間子牧世話人 猪野耕之助

同 山本次左衛門

極楽寺村	上布田村	下布田村	雨坪村	武勝村	木原村
吉田村	吉倉村	大谷流邸	小谷流村	勢田村	用草村
岡田村	根古谷村	七曲村	西御門村	宮内村	飯塚村
内田村	上泉村	下泉村			

右村々 用掛御中

回達

第八大区五小区扱所

上極楽寺村始植草村止リ

本年県庁乙第四百四拾五号御達シニ抛リ大区会予備議員撰拵投票セシメ  
候処左之名面之者其撰ニ相当リ候ニ付相達候条、区内一般江無洩可被相  
達、此旨及御達候也

九年九月廿八日

旧第八大区扱所

第八大区五小区扱所中

上布田村 猪野七郎右衛門

県庁本年甲第五百十号御達相成候ニ付而ハ来ル十月三日ヨリ第七大区  
十一小区茂原駅茂原寺ニ於テ臨時大区会相開候条、改正事務ニ担当之  
者ハ別而臨切之義ナレハ右当日ヨリ改正事務之制、戸長及ヒ各邸用掛  
其他有志之者ハ傍聴ニ罷出候様達方御取計可被成候、依之此段御達候也

九年九月廿九日

元八九大区扱所

第八大区五小区扱所中

追而甲第五百十号布告拾四枚ツ、各村へ下付候条引去順達可致事  
今般第七八大区出張所ヲ長柄郡本納村へ新置候旨県庁丙第三百五拾号  
ヲ以御達し相成候処、来ル十月一日ヨリ開設事務取扱候条該区内人民江

無洩可相達、此段相達候也

九年九月廿八日

元第七大区出張所

第八大区五小区扱所御中

回達 瀧沢村始

第八大区五小区扱所

各村用掛中

今般県令安房国上総国之内視察トシテ丙第三百六十六号達ノ通巡回相成候ニ付而ハ其扱所ハ勿論沿道各小区扱所ヘモ時宜ニ寄り臨視可相成義も有之候条、得其意不都合無之様可被取計候、此段為心得及御達候也

明治九年九月廿九日

木間瀬 大属

村松 大属

第七八大区 正副戸長中

追而県令通行之際休泊所案内人之外用掛以上ノ者送迎等ハ勿論差掛リ

故リシ道路ヲ修繕シ或者路傍盛砂等ノ弊事無之様厚注意可被致候、

此段添テ及御達候也

前条之通被相達候条、不都合無之様御注意可有之、此旨及御達候也

九月三十日

元第八九大区扱所

第八大区五小区扱所中

捕馬

小間子牧

回章 下極楽寺村始

世話掛

記

上極楽寺村 下極楽寺村 上布田村 下布田村 植草村 瀧沢村

右六ヶ村ハ例年之通、布田入り迫立相濟候ハ、六ヶ村申合セ有戸番人

足附置キ、余り人足ハシモク土手立切り 雨坪村 武勝村 木原村 右

三ヶ村者字タラボフ詰之事

一馬曳繩 壹ヶ村ニ付 三本ツ、

一迫立人足之儀式間竿ハ勿論、牧込ノ節相用ヒ候繩、人足壹人ニ付九尺

ツ、銘々持参之事

右者来ル八日字新込分捕馬取掛り候間、同日午前四時限り銘々所持シ場所人足差出シ迫立候様可被成、此回章至急順達回尾ヨリ野先ニ於テ拙者共方ヘ御返却有之度候也

明治九年十月五日

小間子世話掛

猪野 耕之助

山本治左工門

下極楽寺村 上極楽寺村 上布田村 瀧沢村 植草村

雨坪村 下布田村 武勝村 木原村

右邨々 用掛衆中

追而強雨ニ候ハ、日送り之事

回章

上下極楽寺村用掛

上布田村始

明七日込場小屋掛之義者各村ヨリ人足五人ツ、差出候様仕度、尤其節

右場所江持参之品左ニ

一、五六寸位之竹 壹ヶ村ニ付十本ツ、一こも 十枚 一繩 式ツ

但弁当御持参之事

右之通仕度候間、此段御承引被下度候也

九月六日

上下極楽寺用掛

回章

第八大区五小区扱所

上布田村 下布田村 武勝村 用掛御中

各村用掛中

至急

上極楽寺始

達

第八大区五小区扱所

各村用掛中

本年県庁丙第三百七十七号ヲ以被相達候野犬取締心得 第五款ニ掲ルト

コロノ野犬獲殺証書料紙一村町ニ付拾枚ツ、配付候条、牧場距離四里以

内村町表中ニ載スル村町用掛へ可相渡候、右者丙第三百三十八号ヲ以相

達候、各村町用掛ノ内へ野犬取締担当之者相定申出候上右担当ノ者へ可

相渡之處、今以担当ノ者名氏不申出向有之ニ付、前行之通取計候条、料

紙受取書之義者担当之者より差出候様可被取計、此段相違候也

九年九月廿八日

千葉県 第二課

第八大区五小区扱所

別紙之通御達相成候ニ付、当区内牧場距離四里以内村々用掛之内、野  
犬取締担当之者相撰、其村毎壹名ツ、取極メ至急人名書十二日迄ニ可  
差出候也

明治九年十月九日

第八大区五小区扱所

瀧沢村 上極楽寺村 下極楽寺村 上布田村 下布田村 植草村

雨坪村 武射郡 武勝村 松之郷村 酒造村 三ヶ尻村

右村用掛中

早々順達周止より返却有之候事

至急

酒蔵村始

九年十月廿一日

刻付

先般当扱所へ出会之節巡查民設願書之義ニ夕通ハ村々用掛調印相成居、  
然ル処今ニ夕通り無之候得共者差出方ニ差支候ニ付、至急持廻リ為請候  
条、右村々人名調印有之度候也

但シ中ニハ組長ニ而用掛代理調印有之分ハ矢張其者ニ而調印有之へ  
き事

明治九年十月廿一日

第八大区五小区扱所

右村々用掛中

上極楽寺村 下極楽寺村 上下布田村 植草村 雨坪村

武勝村 瀧沢村 酒蔵村 三ヶ尻村 松之郷村

道庭村 家之子村

一巡查耆名

此老ケ月費金八十三錢八厘

右拾ニヶ村用掛總代申上候、方今行 正警察之実勤ヲ人民一般了知仕  
候様為致度、今般用掛協議之上連署、村々より自費差出巡查一名増置  
相願度、尤查官撰拳時服其他着用品等一節 県庁之御処分ヲ仰度、此  
段御聞届被成下度奉願上候也

明治九年十月十六日

上極楽寺村 山本 彦兵衛

下極楽寺村 山本仙右衛門

外十一ヶ村用掛 氏名 印



回達

第八大区五小区扱所

上布田村用掛事務掛御中

瀧沢村始

拙生義当区内巡回トシテ罷越、明一日午前第九時六小区二又村扱所、同

達

第八大区五小区 上布田村用掛行

午後第一時五小区瀧沢村扱所、同第四時四小区東金町扱所巡回候条、各

千葉県改租掛 堀江 栄之助

員御詰合ハ勿論各村用掛一名ツ、出頭罷在候様御取計有之度、此段申進候也

第八大区五小区上布田村  
用掛事務掛右一名ツ、

九年十月三十日

区長 板倉 胤臣

第八大区五小区扱所御中

右者其村地引帳中不都合之廉有之候間、其村扣帳悉皆持出張先東金町  
へ本日可罷出候、此段相達候也

(上布田 猪野家 B・16・3)

十月廿九日

改正掛 堀江 栄之助

右村用掛

【史料4】御布達書

明治九（一八七六）年十一月

(豎冊・表紙)

明治九年  
御布達書  
十一月十日

上布田村

用掛御中

東金町ニテ

官事 急キ

改租総代人

今般各村毎地地位等級調査之義ニ付及御談度有之間、明廿九日午前第十時迄二東金町つた屋庄兵衛方迄両三名御出頭被下度、此段及御達候也

九年十月廿八日

佐久間東吉郎

今般該区各学校監督トシテ明一日午後第一時より布田校始巡回候条、就而ハ学事分掌副戸長衆御立会被下度、尤巡校之節該候事務掛ハ勿論学区内申合セ用掛リ一兩名必出席可致旨予テ御通達有之度、此段及御達候也但日曜二候とも都合有之義ニ付巡回中生徒出校可為致旨教員江申通被下度申添候也

九年十月三十一日

第廿三番中学区内取締

第八大区五小区扱所御中 江口 平兵衛 印

別紙之通り学区取締より御達相成候ニ付、明一日午前十時各邨用掛名ツ、校所へ御出頭有之度、此段申進候也

九年十月三十一日

布田校事務掛

上極楽寺村 下極楽寺村 上布田村 下布田村  
雨坪村 各邨用掛中

但生徒之義モ不参無之様御取計ハ被下度候也

至急

回達

第八大区五小区扱所

各邨用掛中

瀧沢村始

上極楽寺村 猪野三郎右衛門

道庭村 石井 与三郎

右之者今般当小区内学校事務掛リ御申付ニ相成、近日各校へ巡視可有之候条、其節旧事務掛リヨリ是まで取扱来候校務之義者悉皆引継候様可被致、此段及達候也

追而右両名事務掛拜命之義小学区内へ無洩相達シ可被置様取計ヒ有之度候也

明治九年十一月十日

第八大区五小区扱所

瀧沢村 上極楽寺村 下極楽寺村 上布田村 下布田村

植草村 雨坪村 武射郡武勝村

右村用掛中

村名下江受印、早々順達周止ヨリ返却可有之事

刻付

達 第八大区五小区扱所

植草村始

予テ地主惣代人江協議置候通り明十七日模範瀧沢村地位等級調査ニ付、区長及ヒ改租惣代人一同同村へ出張候ニ付、用掛事務掛惣代人等右同日午前第九時揃当役所江出頭着相届候様可被申聞、此段及達候也

九年十一月十六日午前第九時

第八大区五小区扱所

植草村 雨坪村 武勝村 下布田村 上布田村

下極楽寺村 上極楽寺村

右村々用掛中

追而刻付ヲ以テ順達留リ村より返却可被成候也

小間子牧

回章

上布田村始

世話掛

捕馬人足賃割合可申候間、明十七日午前第十時本極寺へ御出会有之度候也

九年十二月廿六日

小間子牧世話掛

猪野 耕之介

山本次左衛門

上布田村 植草村 雨坪村 下布田村 武勝村 木原村

右村々用掛中

回達

上布田村始

第八大区五小区扱所

清酒造人之内醸造高ヲ隠蔽シ売捌候者者勿論売買ニ不抱隠蔽セシ造高ヲ取上密造同様処分相成リ候趣、大区扱所より被相達候条、心得違無之様酒造人江至急通達可被致、此段及達候也

附言本年休業願人者勿論引続營業不相願候者共心得違ヲ以密造致し候得者、本文同様成規ニ照し処分相成候条、嚴敷可被申聞事

九年十二月十五日

第八大区五小区扱所

上布田村 下布田村 上極楽寺村 下極楽寺村

右村同掛組長中

追而至急順達、周尾より返戻可有之事

達 第八大区五小区扱所

大至急 上下極楽寺村より雨坪村迄

地租改正掛官員方今夕カ明廿一日早朝模範瀧沢村へ出役相成候条、先般模範村江出頭致し候用掛事務掛地主惣代人一同明廿一日午前第七時揃当扱所へ出頭着相届可被申候、此段持廻リヲ以及達候也

九年十二月廿日 第八大区五小区扱所

上下極楽寺村 上布田村 下布田村 武勝村 雨坪村 右用掛中

急達 当区戸長 山本治左衛門

上布田村始

模範瀧沢村検査ニ付用掛事務掛惣代人印形入用ニ候条、今十時限瀧沢村御出役先江持参可被致候、廻章迅速順達周尾より返戻可被有候、此段及達候也

九年十二月廿七日 戸長 山本治左衛門

上布田村 下布田村 武勝村 雨坪村 植草村  
追而村名下二刻ヲ以順達可被致候事

予テ申談置候来ル十年一月一日ヨリ国旗掲揚之義、村々ヨリ請書差出シ有之処猶又大区ヨリ此度戸別国旗ヲ可掲ケ様御違シ相成候間、夫々用掛

リニテ注意致シ旧弊ノ始末無之、全ク陽曆之新製ヲ賀シ国旗ヲ掲揚可為致、此段更ニ及達候也

九年十二月廿七日 第八大区五小区扱所

回達 第八大区五小区扱所

予テ模範瀧沢村ニおゐて協議ニおよび置候通、各邸地位等級調査之義明七日極楽寺村より着手候条、同日午前第八時揃用掛事務掛地主惣代人一同右村江出張候様取計可被申候、此段及達候也

十年一月六日 第八大区五小区戸長

瀧沢村 植草村 雨坪村 武勝村 下布田村 上布田村  
上下極楽寺村 右用掛中

追而本文極楽寺村出張先ニ於テ申談義数ケ有之候条、不参之もの必無之様取計可被申候、且此達書迅速刻付ヲ以順達留リヨリ拙者出張先へ返戻可有之候也

至急 各村用掛組長中

回達 植草村始

裏 第八大区五小区扱所

各小区会議之儀、昨九年十月中大区會議之節各小区戸長協議之上区長ヨリ県庁へ本年一月ヲ以テ開会可致旨決定相成候ニ付、左ノ撰挙手續ヲ以テ議員撰定可致候事

小区會議員撰挙手續き

一小区會議員ハ仮リ村町伍長ニ於テ撰挙セシムルモノトス

一 議員撰挙法ハ人口二百五十口ヲ以テ仮リ老人ヲ挙ルモノトス  
但区内役員并村吏及ヒ寺院住職ノ差別ナク本籍ニアル者ヲ挙ベシ

議員人員割法

一人口三百人	議員老人	上極楽寺村	下極楽寺村
一人口二百五十六人	同 老人	瀧沢村	
一人口二百六十五人	同 老人	上布田村	下布田村
一人口二百八十五人	同 老人	武勝村	雨坪村
一人口二百六十一人	同 老人	植草村	酒蔵村
一人口千〇六十七人	同 四人	松之郷村	三ヶ尻村
一人口三百五十九人	同 老人	道庭村	
一人口六百六十二人	同 老人	家ノ子村	

此議員十二名

右撰挙方法篤下遂熟覽、各村共伍長江至急相違シ夫々投票為差出、用掛  
ニ於テ取束ネ本月十七日ヲ限リ持参可被致候也

十年一月十四日

第八大区五小区扱所

植草村	雨坪村	武勝村	下布田村	上布田村
上極楽寺村	下極楽寺村		右村々用掛組長中	

(上布田 猪野家 B・16・4)

【史料5】御布達書

明治九（一八七六）年十二月

（堅冊・表紙）

明治九年
御布達書
十二月 日

回章 第八大区五小区扱所 十年一月廿二日発ス

瀧沢村始メ

本月廿七日ヨリ七日之間第七大区十四小区本納村蓮福寺ニ於テ兩大区  
本年第一回大区会開会、民費減省其他数件審議候条、各村用掛リ組伍長  
ハ勿論有志之者ハ傍聴候様各邸駅宿町人民一般江無洩御通達可被成候、  
此段及御達候也

一月十九日

第七八大区扱所

第八大区五小区扱所御中

九年（自一月至十二月）地租改正費取調書上

第八大区五小区上総国山辺郡上布田村

一金百廿円廿錢四厘 改正書入費

内訳

金八拾壹円	人足賃錢	測量雇費
金三拾九円廿錢四厘	道路修繕費并器械村費	

反別八十三町五反壹畝拾貳步 改正田畑宅地山林反別共  
右之通り取調差出候也

十年一月廿一日

右村用掛 猪野 丹藏  
同 事務掛 猪野勇次郎

第八大区五小区

扱所 御中

回章

第八大区五小区扱所

瀧沢村始

第一月廿四日午後第七時発

今般当五小区内ニ於テ大区会予備議員一名撰挙投票可差出旨至急御達  
し相成候条、各村町明治九年撰挙人ニ於テ投票致し明廿五日午前第十時  
迄ニ当扱所へ差出候様、至急撰挙人中へ通達可取計、此段及達也

一月廿四日

第八大区五小区扱所

午後七時発ス

瀧沢村 植草村 雨坪村 武勝村 下布田村  
下極楽寺村 上極楽寺村

右村々用掛中

追時上極楽寺村山本次左衛門、下極楽寺村猪野耕之介、上布田村猪野七  
郎右衛門 右三名者本議員ニ付今般之撰挙二者可相除候事

回達 第二月十五日 午後三時発ス

刻付

第八大区五小区扱所

極楽寺村始植草村止リ

各邨産土神別段縁由有之神社等ニテ社格未定ノ分ハ人民之情願ニ依リ  
郷村社ニ加別之儀夫々可及詮儀候条、別紙雛形ニ做ヒ明細書及ヒ絵図面  
相添可願出旨御布告相成候条、来ル廿日限り有無共可被申出、此段写ヲ  
以及達候也

二月十五日

第八大区五小区扱所

上下極楽寺村 上布田村 下布田村 武勝村 雨坪村  
植草村 右村々用掛中

明細書雛形

第八大区五小区

上総国山辺郡何村字鎮座

其神社

祭神 由緒 社殿間数 境内坪数 神官人名

氏子戸数

鎮座年月日ヲモ記スヘシ  
大小建物ヲ並ヘ挙クヘシ  
地種ノ區別ヲモ記スヘシ

絵図記載方

境内周廻ノ間数、本社拝殿華表瑞籬手水鉢其他ノ建物及ヒ石垣石階  
等ノ位置、境内方位等詳細記載スヘシ

今般種痘所開発ニ就而ハ昨九年内務省甲第十六号天然痘予防規則県庁  
甲第七十七号之種痘順序之布達ニ依リ未痘児并再三接之人員無遺漏

篤卜御申諭、左之定日午前第七時種痘所へ罷在候様未痘児父兄へ御申聞有之度、此段及達候也

明治十年二月廿三日 第八大区五小区 種痘所

種痘定日 本月廿五日

布田村 用掛御中

達 回章 第八大区五小区扱所

植草村始

今般東京山下門内へ博物館ニ於テ縦覧御差免相成候間、別紙之通掲示場へ掲出可被致、此段及達候也

三月廿一日 第八大区五小区扱所

明治十年三月十五日ヨリ日数六十日間

連日開館 山下門内 博物館

牧付村々用掛御中

香田 信平  
野村 鉄平

以廻章得貴意候、陳者野馬作場入之村々有之、捕押之義被申越候得共、其内境界不手入ニ而作場入之村も有之候哉ニ存候、右様之義無之様御心附、御村内江御依願被下度、此段御願申入候、廻章御一覽後早々御順達被下、從留御返却可被下候也

三月十五日 瀧台会社詰 野村 鉄平

永沢社詰 香田 信平

瀧邸 油井村 松之郷村 三ヶ尻村 瀧沢村

植草村 下布田村 上布田村 上極楽寺村 下極楽寺村  
武勝村 木原村 右村用掛御中

布田村用掛組長御中 右区 種痘所

至急

当県下ニ於テ此程天然痘ニ懸リ候旨届出候者有之、右ハ自然痘ノ他ニ伝播候而者不相成ニ付、未痘児再三接ニ至迄至急接種為致度候、尤新鮮痘苗之義申出次第頒布候条、此段各種痘所へ迅速御達有之度候也

明治十年二月八日 千葉病院長代理医局長

築地有猷 印

第八大区医務取締

江口平兵衛殿

別紙之通昨九年内務省甲第十六号天然痘預防規則県庁申第七十七号種痘順序之布告ニ照準、無脱漏未痘児再三接之人員一層御注意被成下、本月廿四日午前第十時未痘児再三接之父兄へ篤と御申聞、為差出候様有之度、此段及御達候也

明治十年三月 右区種痘所

其区内各町道路及ヒ田畑冠リ等之本蔭是又伐採セサル向往々有之、夫カタメ道路ハ両辺ノタメ数日間泥濘ニシ人馬ニ及ヒ人車等殆ト往キ安スカラス、又田畑ニ冠ル木蔭ノ如キハ頗ル收穫ヲ害スルハ皆人民ノ周知スル処ナレハ、予テ御達ノ次第モ有之旁以各村用掛江協義之上此際伐払候様御通達可被成候、此段及御達候也

追而社寺上知其他官有二係ルモノハ願書為差出候様御取計可被成候、

是又別而申進候也

明治十年三月十一日

第七八大区扱所

第八大区五小区扱所御中

回達

第八大区五小区扱所

瀧沢村始

各村用掛中

種痘医 岩崎 玄津

山崎 玄周

右両員本月中当五小区内村々江派出致シ、未痘児初度再三接等之人員へ種痘致シ候様医務取締ヨリ各村江達し有之二付、近々両医派出致し候間、村中江無洩相達シ置候様取計ヒ有之度、此段及御達候也

但シ村々へ派出日割之義者両医ヨリ報知可有之候条、添テ御達置候也

明治十年四月四日

第八大区五小区扱所

瀧沢村

上極楽寺村

下極楽寺村

上布田村

下布田村

武勝村

雨坪村

植草村

各村用掛中

(上布田 猪野家 B・16・5)

【史料6】御達書

明治十(二八七七)年十月

(堅冊・表紙)

明治十年  
御達書  
十月 日

極楽寺ニテ

回章

上布田村始

山本治左衛門

明十日小間子牧旧新込分内払、及ヒ捕馬致し候ニ就テハ例之通り笹引江御出張、馬数取調候様致度、且水手桶ひしゃく茶わん等三ツヲ差出し置候様御取計可被成候、右申進度如斯候也

十年十月九日

山本治左衛門

上布田村

下市田村

武勝村

右御役人中

追而人足之義者昨年之通り持場々へ予テ御相議および置候通御差出可被成候、且出張時間八午前第四時之御心得ヲ以御取計有之度事

回章

第八大区五小区扱所

瀧沢村始

丙第式百六拾号

第七八大区 区長

頃日虎列刺病流行之兆有之候ニ付而者人寄定席ハ勿論其他諸興行等群集候杯之儀当分之内渾テ不相成候条、右營業之者ニ無洩相達、且臨時興

行之儀モ出願不致様至急各小区戸長工可相達候、此段相達候事

明治十年十月十四日

千葉県令 柴原 和 代理  
千葉県少書記官 岩佐 為春

回章

第八大区五小区扱所

瀧沢村始

月々妊娠出産出生死亡出入寄留又者帰籍届等村々組長ニ而有無トモ交番ヲ以可届出筈之処、于今届書不差出者数名有之候間、用掛ニおゐて注意ノ上届出方被取計度、此旨及御達候也

十年十月十七日

第八大区五小区扱所

瀧沢村 極楽寺村 上布田村 下布田村 武勝村  
雨坪村 植草村 酒蔵村 三ヶ尻村 松之郷村  
道庭村 家之子村

右村々用掛中

小間子牧附村々

山本治左衛門

回章

山田村始

本年捕馬去ル十四日ヨリ売掛り居候處景氣不宜残馬多分有之ニ付、右取扱方之義昨年迄ハ会社ニ於テ引取呉候得共、本年之處引取方差支候趣、依テハ右残馬之処分方及協議度候条、明後十八日正午十二時揃入街村永澤社へ用掛中御出会有之度、此段廻章ヲ以申進候也

永澤社ニ而

山本治左衛門

十年十月十六日

山田村 丹尾村 瀧村 油井村 松之郷村

三ヶ尻村 瀧沢村 植草村 上布田村 下布田村  
雨坪村 武勝村 木原村 右村々用掛中  
追而此廻章留リヨリ御返戻有之度事

回達

第八大区五小区

瀧沢村始

予テ御達ニ付各村道路掃除丁場戸別へ割賦標木相建、且破損ノ場所ハ修繕イタシ至急可届出旨過般及談置候処、于今無其義甚タ等閑ノ至候条、標本及ヒ修繕行届候村々ハ速ニ可被届出、此段及回達候也

十年十月廿七日

第八大区五小区扱所

追而本文標木及ヒ修繕等行届候上ハ正副戸長之内巡視候条、被得其意刻付ヲ以迅速順達可被致候也

小間子牧附村々

極楽寺村始

回章

下砂子村止り

刻附

予テ御談示申置候通り昨明治八年以来野馬代金不納分、去月三十一日限り会社へ可相納筈之処今ニ等閑致置、計算上差支候趣ヲ以別紙未納人名調書被差廻候条、来ル十二日限り無相違両会社へ相納候様致度、前条等閑置候得者本年馬代金三分ノ内ヲ以テ差引致度趣、左候得者馬代金ニ関係無之村々へ対シ相済儀ニ付得其意日限通済方致、拙者方へ被届出度候、回章刻附ヲ以順達留リヨリ返却有之度候也



附言本文馬代金未納人実事不行届向ハ会社ヘ示談証書差入濟方致候共、イヅレ敷相済シ可被申候、最早本年馬代金割賦延引相成候ニ付、未納分済次第速ク割賦致シ度、此段添テ申進候也

十年十一月九日

小関子世話人

午前第八時

山本治左衛門

極楽寺村

上布田村

植草村

瀧沢村

三ヶ尻村

松之郷村

油井村

瀧村

丹尾村

山田村

中野村

富田村

上砂子村

下砂子村

右村々用掛御中

追テ過般捕馬之節各邸ニテ野馬八頭引請候内、木原村ヲ除クノ外馬代金相納不申、不都合ニ付来ル十二日迄ニ拙者ヘ御持参有之度、右金取纏メ候上ハ来ル十五日頃割合致度、御心得迄申進候也

明治八年馬代金未納人名調

〔三十六名 氏名略〕

明治十年五月馬代金未納人名調

〔十二名氏名略〕

至急

回達

雨坪村始

第八大区五小区扱所

道路橋梁之義者国ノ義務タル故ニ全国一般役金御取立相成居候処、去ル明治八年以降国役ヲ廢セラレ毎村道路橋梁修繕サセヘク旨御布告相成、尚過般各村ヘ道路掛リヲ被置候得共掃除丁場ハ勿論修繕向等閑之村方も相見ヘ不相済ノミナラス追々寒氣ニ向ヒ道路修繕セハ却テ道ヲ破害スルノ基ニ可成義ニ付、予テ達シ置候通掃除丁場等相定標木建設之上速

二可被届出、此段及達候也

十年十一月廿日

第八大区五小区扱所

回章

上布田邸始

牧場世話掛

山本治左衛門

本年捕馬売払代金分通り割賦方之儀、未納人之タメ追々延引ニ相成候ニ付、未ル廿五日割合致度候条、同日午前第十時揃各村用掛衆無名代印形御持参、極楽寺村本極寺ヘ御出会有之度、此段廻章ヲ以申進候也

小関子牧世話掛

十年十一月廿一日

山本治左衛門

上布田村

下布田村

雨坪村

武勝村

木原村

吉田村

勢田村

吉倉村

用草村

内田村

飯塚村

宮内村

根古屋村

岡田村

七曲村

西御門村

大谷流村

小谷流村

上泉村

下泉村

右村々

用掛御中

追而一昨年の降馬代金不納之者共之内、于今会社ヘ不相納向有之趣、昨廿日香田氏より被及談不都合ニ候条、来ル廿五日限り濟方相成候様御注意有之度、此段申進候也

回達

下布田村始

第八大区五小区扱所

本年県庁甲第四百十号ヲ以御布達相成候通、来明治十一年国民軍籍年齢相当之もの届書差出し方之義、本月廿日限り可差出筈之処、于今等閑置調査差支候条、明廿七日限り有無共無相違届書可被差出、此段持廻リを以及達候也

十年十一月廿六日

第八大区五小区扱所

(上布田 猪野家 B・16・6)

【史料7】御達書

明治十一(二八七八)年十月

(豎冊・表紙)

明治十一年

御布達書

四月五日

乙第九十四号

落花生ノ効用タル別紙解説書之通りニテ畑作物ヨリ熟成ノ期頗ル長シト雖、粗悪ノ地ニモ能ク生立、殆一作ヲ以テ二納ノ収利モ有之モノニ付、開墾新畑等ヘハ成丈試作致シ度候、殊ニ該油ハ鯷魚ノ油漬ニ適シ、西洋人ノ嗜好スル所ニシテ、往々一種有益ノ輸物トモ可相成趣旨、県ノ如キ沿海ノ漁場鯷魚多獲ノ地方ニ於テ右油漬ヲ以別ニ一大生産ヲ開キ候ヘば、需用從テ広ク從前ニ無之余分ノ収利ヲ可見候、依而落花生ハ管下ニ於テ最モ有益ノ目的アルモノニ付、種子ヲ購求有志之者ヘ貸渡培養為致候条、望之者ハ本月其人及数量共取調可申出候、種子返納ノ儀ハ收納ノ上貸渡シ本量之式割増ヲ以十月限り可相納、此旨趣達候事

明治十一年四月三日 千葉県令 柴原 和

落花生試験ノ効用解説書

落花生ハ内国ニ於テ未タ著名ノ産地無之、從來鹿児島諸島之海浜砂畑ニ能ク蕃殖スルト雖モ畜ニ土人之食料トナス迄ニテ之ヲ他ニ販売スル者ナク、從テ其効用ヲ知ル者少キ処、近來之ヲ試植シテ肥培ノ費ハ少ク收穫ノ多キヲ覺ヘリ、漸々伝種各地栽培ヲ競フノ勢あるニ至レリ、<sup>(マ)</sup>のうヤ本県第二課勸業試験場内ニ於テ昨年来試験ヲ遂タル実況ヲ報道シ、売当之有益物タルヲ知ラシメ、種子ヲ頒布シ以テ一般ニ之ヲ勸奨セント欲ス

一落花生ハ毎年三月下旬ヨリ四月中旬迄ヲ播種ノ季節トナシ、播種シテ十四五日或ハ廿日ヲ経テ萌芽ヲ發シ、發生ノ後中央ノ一茎僅ニ七八寸許擡頭スルノミニテ漸次四方ニ蔓延シ、一株ノ円徑三尺余ニ及ヒ凡四株ニシテ一坪ノ地ヲ滿面ノ翠緑トナラシメ無数之花蕊ヲ地中ニ挿入シテ実ヲ結フ、是レ落花生ノ名ヲ得ル所以ナリ、故ニ夏季土用後ニ至リ四方ニ延ルノ蔓條下垂、恰モ柱ヲ施ルカ如ク容易ニ之ヲ揺ス可カラス、最モ能ク暴風雨ニ耐ルモノトス、肥料ハ播種ノ節灰糖或者堆糞ノ類ヲ施スノミニ其余者蔓條ノ繁延スルニ從ヒ時々土壤ヲ和ラケ、花蕊ヲシテ地ニ入易スカラシメ、草根ヲ除クノ外敢テ多分ノ手数ヲ要セス、十月頃ニ至リ一二度ノ降霜ヲ経テ直ニ之ヲ掘り揚ケ、蔓條ノ一々之ヲ干竿ニ掛テ乾燥シ、然ル後ニ豆実ヲ取収ム、收穫ハ土地ニ由リ相違アリト雖モ凡一株ノ 莢実七八合ヨリ一升二三合ニ及フモノニ付、平均九合トシテ尙反歩ノ収額拾石八斗トス、供用「食用力」ハ烹煎俱ニ佳味ト雖モ、其需用ノ広キハ油ヲ製スルニ如クハナシ、各「石力」莢実一石ノ正豆式斗五升ヨリ精油凡五升

ヲ得ル、之ヲ点灯ニ用レハ菜油ニ比シ消燼シ易シト雖モ、食油トナセハ色味俱ニ胡麻油ノ上ニ出ツ、最モ魚漬ニ適シ、又其質希薄ニシテ粘着セサルヲ以、之ヲ百般ノ器械ニ施シ車輪運轉ノ速ヲ助クルホルト油ノ代用ヲナスヘシ、搾糟ヲ以テ菓子ヲ製スヘシト聞ク、之ヲ炮蒸粉細シラ黄ナ粉ノ代用トナシ、或ハ「コーヒイ」トナスニ頗フル佳味トス、亦一種ノ好食料トナス、決シテ之ヲ肥糞ノミニ附ス可カラス、是レ全ク算別ノ余利ナリ、油ノ代価ハ其効用ヲ以テ之ヲ菜油ト比較スレハ上ルト雖モ下ルノ理ナシ、蓋シ尠反歩ニ付捨五円内外ノ収金アルヘシ、地味ヲ扱ハス勞費ヲ省キ此如キノ効益アリ、豈貴重スヘキノ植物ナラスヤ、然ルニ此物尤モ鳥鼠ノ好ム所ヲ以テ播種シテ未萌芽セサルノ間、苟モ予防ヲ怠ルレハ全ク食ヒ尽サルニ至ル、是ヲ以テ一坪四粒蒔ヲ適度トスト雖モ往々鳥鼠ノ害ヲ受ケ發生セサルヲ以テ六粒蒔ヲヨシトス、亦是ヲ防クノ方法ハ栗毬ヲ以テ種子ヲ周圍シ置ヲヨシトス、或ハ別ニ苗床ヲ設ケテ種苗ヲ仕立置キ、欠地ヘ添植ルモ又ヨロシ、其他之ヲ試作スルモノ自得シテ發明スル所アルヘシ、各「右カ」鳥鼠ノ害ヲ防クト、二度以上ノ降霜ヲ受ケサル以前ニ收納スルハ、該物ヲ作置スル最モ要旨トス、宜ク注意スヘシ

明治十一年四月

千葉県

回章

小間子牧世話人

植草村始

山本治左衛門

小間子牧犬防口鑑札之義、去ル明治八年三月中各村犬防人へ下附致置候處、中ニ八人名相換り候向モ有之哉ニ付、今回鑑札引替相渡可申候

間、明後五日各村用掛中印形及ヒ前相渡置候鑑札御持參、拙宅江御出頭可被成候、回章至急刻附ヲ以順達留リヨリ其節御返戻有之度、此段申進候也  
小間子牧世話人

十一年五月三日

山本治左衛門

植草村 上布田村 下布田村 雨坪村 武勝村 木原村  
吉田村 吉倉村 勢田村 大谷流村 用草村 根古屋村  
宮内村 七曲村 岡田村 上泉村 右村々用掛御中  
追而各村順能御順達有之度、此段御依頼およひ候也

小間子牧附村々

同牧世話人

回章

山本治左衛門

刻附 極楽寺村始

小間子牧字瀧台捕込之義、場所不宜ニ付毎々追込之節差間候ニ付、会社へ協議之上びんだらひ土手中央へ位置相定新築致度候条、用掛中人足召連繩張竹等用意、来ル廿六日午前第七時揃ひ瀧台会社へ刻限区々不相成様御出張有之度、此段廻章を以申進候也

十一年五月廿三日午前第九時

小間子牧世話人

山本治左衛門

附言本文捕込新築ニ就而ハ会社ヨリ賃金之内央ハ出金候筈談判致置候条、御含迄申副候也

極楽寺村 上布田村 植草村 瀧沢村 三ヶ尻村  
松之郷村 油井村 瀧村 丹尾村 山田村  
中野村 富田村 上砂子村 下砂子村  
右村々用掛御中

追而至急刻附を以御順達回止ヨリ野先へ返戻有之候也

外壺通村々

下市田村	雨坪村	武勝村	木原村	吉田村	吉倉村
勢田村	用草村	大谷流村	小谷流村	稻葉村	根古谷村
岡田村	七曲村	西御門村	宮内村	飯塚村	内田村
下泉村	上泉村				

右村々用掛御中  
(上布田 猪野家 B・16・7)

【史料 8】 予算議案説明書并ニ決議案 (豎冊)

明治十五 (一八八二) 年一月

予算議案説明書并ニ決議案

上布田村 下布田村 武勝村

極楽寺村 滝沢村 雨坪村

植草村 酒造村 三ヶ尻村

第一章 総則

第一条 本会ハ左ニ掲タル各款ヲ議定ス

第一款 当小学区内ニ係ル経費ヲ以テ支弁スヘキ事業ヲ起廢シ或ハ之ヲ伸縮スルコト

第二款 当小学区内従前ノ学資金及ヒ寄附シタル田畑山林等ヲ更ニ

取消シ増減スルノ方法ヲ設タルコト

第三款 当小学区内ニ係ル経費ヲ予算シ及其課賦方ヲ設ケ学校ヲ維持スルコト

第四款 当小学区内共同ノ名義ヲ以テ土地家屋金穀借入ル、コト

第二条 本会ノ儀案ハ戸長学務委員協議ノ上戸長ヨリ之ヲ発ス

第三条 本会ニ於テ第一条ニ掲クル各款ノ事件ニ付議員ヨリ意見書ヲ出ストキハ戸長之ヲ取捨シ当ニ議スヘキ意見ト認タルニ於テハ直ニ之ヲ會議ノ議案トナスベシ

但意見書ヲ出スハ少ナクモ開会ヨリ五日以前タルベシ

第四条 本会ノ議決ハ戸長ヨリ郡長ニ報告シ客年 (十一月十五日) 県庁

乙第九十七号御達ニ依リ施行スルモノトス

第五条 本會議員ノ中連合村利害ニ関スル事件ニ付県令ニ建議セントスル者アレバ議長ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ附シ過半数ノ同意ヲ得タルトキハ本会ノ名義ヲ以テ建議スルコトヲ得

第六条 本会ハ議事ノ細則ヲ議定シ戸長ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ

第二章

第七条 本会ノ議員ハ連合各村議員中ヨリ四分ノ一ヲ出ス

第八条 議長副議長ハ議員中ヨリ公撰シ戸長ニ報告スヘシ

第九条 議長副議長及議員ハ俸給ナシ書記ハ議長之ヲ撰シ庶務ヲ整理

セシム其俸給ハ会費ノ中ヨリ支給ス

第三章

第十条 議員半数以上出席セサレバ当日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第十一条 會議ハ過半数ニ依テ決ス可否同数ナルトキハ議長ノ決スル

所ニ依ル

第十二条 戸長若クハ其代理人及ヒ学務委員ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ弁明スルヲ得ルト雖モ決議ノ数ニ入ル、コトヲ得ス

但第三条ニ掲クル議案ノ旨趣ハ意見書ヲ出セル議員之ヲ弁明スル

コトヲ得

第十三条 会議ハ傍聴ヲ許ス

但シ戸長ノ要ニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聴ヲスルコトヲ得

第十四条 議員ハ会議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レトモ人身上ニ付テ褒貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

第十五条 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ処分ヲ求ムルヲ得

第四章

第十六条 本会ハ定期ナシ其開会ハ戸長之ヲ命ス会日ハ三日以内トス

但シ戸長ハ會議ノ衆議ヲ取りテ其日限ヲ延ルコト得ルト雖モ其事由ヲ郡長ニ報スヘシ

第十七条 本会ハ当連合村内不動産ヲ所有スル者二分一以上ヨリ開会ヲ要求スルトキハ戸長ハ其開会ヲ命ズベシ

第十八条 本会ノ開閉ハ戸長ヨリ郡長ニ報告スヘシ

客年本県甲第四百号ヲ以テ山辺武射郡小学区御達相成候ニ付当小学区上布田村外八ヶ村ノ便宜ニ随ヒ別冊之通り連合会規則相改候間此段仰御裁定候也

明治十五年一月四日

三ヶ尻村惣代人

山本万次郎

酒蔵村惣代人

山田長右衛門

植草村惣代人

神崎 留吉

雨坪村惣代人

池野定之助

滝沢村惣代人

太田玄弘

極楽寺村惣代人

山本治左衛門

武勝村惣代人

並木林左衛門

下布田村惣代人

並木文四郎

上布田村惣代人

猪野多喜次

十五年十九日調印

滝沢村外四ヶ村戸長

宮沢覚蔵

千葉県令 船越 衛殿

上布田村 下布田村 武勝村

山辺郡第四番学区

極楽寺村 滝沢村 雨坪村 連合会規則

第一章総則

第一条 本会ハ当学区内教育上公共ニ関スル事件及ヒ其経費ノ支出徴収方法ヲ議定ス

収方法ヲ議定ス

第二条 本会の議案ハ戸長学務委員協議ノ上戸長ヨリ之ヲ発ス

第三条 本会ニ於テ第一条ニ掲タル事件ニ付議員ヨリ意見書ヲ出スト

キハ戸長ハ学務委員協議ノ上之ヲ取捨シ当ニ議スヘキ意見ト認ムル

ニ於テハ直ニ之ヲ會議ノ議案ト為スヘシ

但意見書ヲ出スハ少ナクモ開会ヨリ五日以前タルヘシ

第四条 本会ノ議決ハ戸長ヨリ郡長ニ報告シ明治十四年(十一月十五日)

県庁乙第九十七号御達ニ依リ施行スルモノトス

第五条 本会議員ノ中当学区内教育上ノ利害ニ関スル事件ニ付県令ニ

建議セントスル者アレハ議長ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ附シ過半数ノ

同意ヲ得タルトキハ本会ノ名議ヲ以テ建議スルコトヲ得

第六条 本会ハ県令又ハ郡長ヨリ当学区内ニ施行スヘキ教育上ノ事件

ニ付會議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ議ス

第七条 本会ハ議事ノ細則ヲ議定シ戸長ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ

## 第二章 撰挙

第八条 本会ノ議員ハ当学区内村議員中ヨリ四分ノ一ヲ出ス

第九条 議長副議長ハ議員中ヨリ公撰シ戸長ニ報告スヘシ

第十条 議長副議長及議員ハ俸給ナシ書記ハ議長之ヲ撰ミ庶務ヲ整理

セシム其俸給ハ会費ノ中ヨリ之ヲ支給ス

## 第三章 議則

第十一条 議員半数以上出席セサレハ当日ノ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十二条 會議ハ過半数ニ依テ決ス可否同数ナルトキハ議長ノ決スル

所ニ依ル

第十三条 戸長若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ弁明スルヲ

得ルト雖モ決議ノ数ニ入ルコトヲ得ス

但シ第三条ニ掲クル議案ノ旨趣ハ意見書ヲ出セル議員之ヲ弁明ス

ルコトヲ得

第十四条 會議ハ傍聴ヲ許ス

但シ戸長ノ要メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聴ヲ禁スルコトヲ得

第十五条 議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レトモ人身上ニ付

テ褒貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

第十六条 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ

議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ処分ヲ求ム

ルヲ得

## 第四章 開閉

第十七条 本会ハ定期ナシ其開会ハ戸長之ヲ命ス会日ハ三日以内トス

但戸長ハ會議ノ衆議ヲ取りテ其日限ヲ延ルコト得ルト雖モ其事由ヲ

郡長ニ報スヘシ

第十八条 本会ハ当連合村内不動産ヲ所有スルモノ三分一以上ヨリ開

会ヲ要求スルトキハ戸長ハ其開会ヲ命スヘシ

第十九条 本会ノ開閉ハ戸長ヨリ郡長ニ報告スヘシ

## 山辺郡第四番学区連合會議事細則

第一条 會議ノ始メハ午前第九時ニシテ終リハ午後第四時ト定ム然レ

トモ時宜ニ依リ議長ハ之ヲ伸縮スルヲ得

第二条 毎会ノ始ニ当リ抽籤シテ議員ノ座次ヲ定メ且議員中立案委員

四名幹事二名ヲ公撰ス

第三条 議長席ニ就クトキハ議員及ヒ書記起テ札ヲナスヘシ

第四条 通常議案ノ可否ハ二次會ヲ經テ決スルモノトシ左ニ其順序ヲ

記ス

第一次会議長書記ヲシテ議案ヲ朗読セシメシ後答弁者ニ向ヒ質問セシメ総体論ノ可否ヲ決ス

第二次会逐条審議シ其可否ヲ決ス

第五条 修正ヲ要スベキ議案ハ委員ヲシテ修正セシメ副議長ヲ議長トナシ小會議ヲ開キ之ヲ決定スルコトアルベシ

第六条 議員發言セントスルトキハ第何番ト呼ヒ起立シ議長之ニ応スルモ又其番号ヲ以テスベシ若シ同時ニ起立スルモノアルトキハ議長ノ指稱ニ当リシモノ發言スルヲ得ヘシ

第七条 甲議員乙議員ニ對シ詰問或ハ質問セント欲スルトキハ議長ニ向テ演說スヘシ乙亦之ニ答フルモ議長ニ向テ發言スヘシ

第八条 議員自己ノ說ヲ陳フルニ所見書ヲ朗読シ或ハ口演ニ代ユルモ妨ナシ

第九条 議員ハ相互ニ番号ヲ稱呼スヘシ直ニ姓名ヲ指斥ス可カラス

第十条 一議員ノ發論中ハ総議員嘿聽シテ其論議ヲ滿場ニ洞達セシムヘシ

第十一条 議長ノ問ニ答フルカ或ハ論旨ヲ維持スル弁明ニ非サレハ一會一事ニ付キ再演スルヲ得ス

第十二条 議場ニ在テハ議事ニ關係ナキ文書ヲ展觀シ或ハ欠伸睡眠私語及吃煙シ又ハ叨リニ其席ヲ離ル、ヲ許サス

第十三条 凡ソ一議未タ了ラスシテ他件ニ涉ルヲ許サズ

第十四条 議員昇退ハ擊柝ヲ以テ報ス可シ

第十五条 會議ノ日議員疾病等止ムヲ得サル事故アリテ欠席ノ節ハ其事故并委託議員ノ姓名ヲ記シタル届書ヲ議長ニ差出スヘシ

但委託セサル、議員ハ一員ニテ二員ノ委託ヲ受クヘカラス

#### 学区制定ニ付議問

昨十四年本県甲第四百号ヲ以当郡学区相定メラレ候ニ付学事ニ関シ至急ヲ要スル事件不少候先以制定セラレタル当学区ノ儀ニ付支障ハ無之哉各員意見ヲ陳述答議アランコトヲ望ム

#### 上布田村外八ヶ村議事細則

明治十七年九月

#### 町村會議事細則

#### 第一章 議場整理

第一条 議事ハ午前第九時ニ始リ午後四時ニ終ル、時宜ニヨリ議長之レヲ伸縮スルコトアルヘシ

第二条 議員ノ席次ハ毎會抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三条 議事ハ議長ノ氏名ヲ呼ハスシテ議長ト呼フヘク、又議長議員ヲ呼ヒ、議員相呼フハ其席次ノ番号ヲ用フヘシ

#### 第二章 議案並修正案

第四条 議案及ヒ報告書ハ議長之レヲ議員ニ頒付スヘシ

第五条 修正說ハ第二次會及ヒ第三次會ニ於テ之ヲ提出スルコトヲ得

第六条 修正說ヲ提出セント欲スル者ハ録シテ文案トナシ、之ヲ議長ニ又議場ニ於テ陳述スルコトヲ得

#### 第三章 議事

第七条 議事ヲ開クトキハ議長書記ヲシテ議案ヲ誦読セシムヘシ

第八条 議案ノ旨趣ニ付弁明ヲ要スル事アラハ

第一次会ノ始メニ於テ之ヲ質問スヘシ

但審議中ト雖トモ疑義アルトキハ其一部ニ付質問スルコトヲ得

第九条 議長ノ意見若クハ議員一名以上ノ請求ニ依リ条項ヲ分合シ又ハ其順序ニ拘ハラスシテ討議セントスルトキハ議長之ヲ決シ、會議ノ決ヲ取ルヘシ

第十条 議事ハ第一次第二次第三次ノ三会ヲ區別ス

第十一条 第一次会ニ於テハ議題ノ大意ヲ議シ、其可否ヲ決ス

第十二条 第二次会ニ於テハ議案ヲ逐条審議シ、逐次其可否ヲ決ス

但シ議場数派ニ涉リ可否過半数ヲ得サルガ為メ其条節消滅シテ支障アリト認ムルトキハ委員ヲ撰ヒ之ヲ修正シ再議ノ後第三次会ヲ開クベシ、又議決セシ条節ト雖トモ整理ヲ要スルトキハ委員ニ附シ其報告ヲ待テ第三次会ヲ開クコトヲ得

第十三条 第三次会ニ於テハ全案ニ就テ議決スヘシ

第十四条 凡動議ハ賛成者ナキモノハ會議ノ問題トナスコトヲ得ス

#### 第四章 発言

第十五条 發言セント欲シルモノハ議長何番ト呼ヒ、議長ハ其議員ノ番号ヲ呼フヘシ、若同時ニ式名以上發言セントスルトキハ議長其姓名ヲシテ發言セシム、討論問答ト雖トモ必ス議長ニ向テ之ヲナスヘシ

第十六条 一議題未タ決シ了ラサルニ他ノ議題ニ付テ發言スルヲ得ス  
第十七条 第三次会ニ於テハ一議題ニ付一議員發言、二回ニ超ルコトヲ得ス

#### 第五章 決議

第十八条 出席ノ議員ハ可否ノ数ニ入ラ（サ）ルコトヲ得ス

第十九条 可否ヲ表スルノ法ハ議員ノ意見ニ依リ起立又ハ投票ヲ以テス

第二十条 動議ハ原案ニ先キテ可否ヲ決スヘシ、其数多キトキハ先第一動議ノ決ヲ取り同意ノ者少数ナレハ之ヲ消滅シ、順次動議ノ決ヲ取り、仍ホ決定ニ至ラサレハ即チ原案ニ就テ可否ヲ決スヘシ

第二十一条 議長ノ意見若クハ議員一名以上ノ請求ニ因リ条節ヲ分疏シテ可否ヲ決セントスルトキハ議長是ヲ決ス、或ハ會議ノ決ヲ取ルヘシ

第二十二条 可否ノ数ハ書記之ヲ検査シ其決定ハ議長之ヲ陳告ス

#### 第六章 委員

第二十三条 委員ハ議員中ニ於テ議長之ヲ命シ、又ハ議員ヲシテ之ヲ撰シムヘシ

第二十四条 委員ハ其附托セラレタル全案ヲ取捨シ或ハ之レヲ改竄スルコトヲ得、其意見ハ委員ノ多数ニ依リテ之ヲ決スヘシ

但第十二条但書後段ノ場合ニ於テハ条節ヲ転置シ字句ヲ修整シ缺定ヲ補フ是スルコトヲ得ルト雖トモ其議決セル条節ノ意義ヲ變更スルコトヲ得ス

#### 第七章 雜則

第二十五条 議事ハ議員相私語シ其他議事ヲ妨クルノ挙動ヲ爲スヘカラス

第二十六条 議事中ハ漫リニ議場ヲ退クコトヲ得ス

第二十七条 議員欠席スルトキハ其事由ヲ議長ニ届出ツヘシ

第二十八条 此細則ハ連合町村会及水利村土会ニモ適用ス



【史料9】上布田村組合并二規約表決議之控

明治十八（一八八五）年八月

（豎冊・表紙）

明治十八年八月ヨリ  
上布田村組合并二規約表  
決議之控

山辺郡上布田村下布田村極楽寺村三ヶ尻村

酒蔵村滝沢村植草村雨坪村武勝村

組合

第一条 組合ハ毎町村便宜地区ヲ分画シ大率十五戸内外ヲ一組トナス

ヘシ

但寄留人ト雖トモ一竈ヲ占ムルモノハ其寄留地ノ組内ニ組入ル、

モノトス

第二条 組合内ハ左ノ事項ヲ確守履行スヘシ

第一項 組合内ハ一家族ノ如ク惻切ニ親睦スルヲ以テ旨トス

第二項 組合内ハ吉凶相問ヒ艱難相助ケ遊惰放万家内不睦又ハ諸税

其他公私共ニ要スル費用ヲ怠納スルモノ及無益ノ奢侈ヲナシ自

然組合中ノ風儀ヲ紊スモノアラハ互ニ教誡ヲ加フ

第三項 組合内ハ常ニ衛生ニ注意スヘキハ勿論就中惡疫流行等ノ節

ハ毎戸務メテ清潔ヲ旨トシ、倘シ該病ニ罹リモノアルトキハ速ニ

衛生委員ニ届出、苟モ病者ヲ陰蔽シ予防消毒方法ヲ怠ル等ノコト

ナカラシム

第四項 組合内ニ出生死亡失踪逃亡又ハ転籍寄留或隱居相続縁組等

凡ソ人事及戸籍ニ関シ願届ヲ要スルモノアルトキハ速ニ其手続

ヲナサシム

第五項 組合内戸主ノ死亡シタルモノアルトキハ速ニ相続人ヲ定メ

シメ其遺産中土地アルモノハ六カ月以内ニ地券証印願ヲ差出サ

シメ違犯者ナカラシムコトヲ要ス

第六項 組合内ニ賦難ニ遭ヒタルモノアルトキハ速ニ届書ヲ作ラセ

警察署若クハ分署ヘ差出サシム

第七項 組合内ニ争鬪其他ノ事故ニヨリ変死又ハ負傷シタルモノア

ルトキハ速ニ戸長役場エ届出檢証若クハ検視ヲ受クル手続ヲナ

サシム

第八項 組合内ニ官庁ヨリ召換ヲ受ケタルモノアルトキハ其日限ニ

必ス出頭セシム

但正当事故ニテ出頭スル能ハサルモノハ代人ヲ差出サシムル坎

若クハ出頭ノ猶予ヲ願出サシムヘシ

第九項 教育ハ国本盛衰ニ関スルモノナルヲ以テ組合内学令児童ニ

シテ就学セサルモノアルトキハ其父兄ヲ諭シ又ハ其方法ヲ謀リ

務メテ就学セシムルモノトス

第十項 組合内ハ互ニ勧誘シテ製産物ノ改良増進ヲ図ルヘシ

第十一項 兵役ハ国民ノ義務ナルヲ以テ苟モ畏懼規避スルノ念ヲ有

セス成規ヲ恪守シ其届出等ヲ誤ラシメサルヲ要ス

第三条 一組ニ正副組長各一名ヲ置クモノトス

第四条 毎村ニ総代人一名ヲ置クモノトス

第五条 捻代人ハ其村内組長ハ其組合内ノ投票ヲ以テ撰定ス、其任期ハ満二ケ年トシ満期再撰スルコトヲ得

但任期内ト雖モ不正ノ所為アル欤若クハ撰挙者過半数ノ同意ニ出テタルトキハ改撰スルコトアル可シ

第六条 投票ハ戸長ニ於管理シ当撰者ヘハ当撰状ヲ付与スヘシ

第七条 捻代人并ニ組長手当金有無其額ハ村内ノ協議ニ依ル

第八条 捻代人ハ其村各人ノ捻代トナリ村内協議ニ係ル事件ハ勿論其

他戸長ノ協示ヲ受ケ諸事ヲ処弁スルモノトス

第九条 捻代人ハ布告布達告示等ヲ戸長役場ニ受ケ之ヲ各組長ニ順達

シ組合内毎戸ニ便宜周知セシムルモノトシ

第十条 捻代人ハ布告布達告示等ノ趣旨ヲ組長ニ解説シ組長ハ組合内

へ懇篤説示シ各人ヲシテ会得遵守セシメンコトヲ要ス

第十一条 組長ハ組合ト長ト為リ第二条ノ各項ニ監督ノ責ニ任スヘク

殊ニ安寧反風俗等ニ関スル件ニ就亦最モ注意シ、倘シ不穩ノ景況アル

トキハ速ニ其筋ニ密告スルモノトシ

第十二条 組長ハ組合内ニ非常ノ災害（風水火震災）ニ罹リタルモノア

ルトキハ速ニ戸長ニ具申スヘシ、其災害ニ罹リ自ラ生存スル能ハサル

モノアルトキハ救助ノ意見ヲ附シテ戸長ニ具申スルモノトス

第十三条 組長ハ組合内ノ名簿式冊ヲ製シ一冊ハ備置キ

一冊ハ捻代人之二連署シテ戸長ニ差出ス

但異動アルトキハ其時々加除スヘシ

右之通当連合法相設候事

山辺郡上布田村外八ヶ村

明治十八年八月廿五日

戸長役場印

上布田村申合規約書

第一条 執業時間之事

一、十月一日ヨリ翌年三月卅一日迄ハ午前第六時ヨリ午後八時迄トス

二、四月一日ヨリ九月卅日迄ハ午前第五時ヨリ午後七時迄トス

三、前二項共休憩時間ハ二時又ハ三時間ニス、日ノ長短ニヨリ便宜伸

縮シト雖休暇日ヲ除キ一ケ年平均一日十二時間ヲ下ラサルヲ要

ス

第二条

一、従前ノ休暇日ヲ改正シ毎月一日十五日及大祭祀日鎮守并ニ祖先祭

典日トス、其他ハ妄ニ休業スベカラズ

大祭祀日及改正

四方拜一月一日 元始祭一月三日 孝明天皇一月卅日

紀元節二月十一日 春季皇靈祭三月廿日

神武天皇四月三日 秋季皇靈祭九月二十三日

神嘗祭十月十七日 天長節十一月三日 新嘗祭十一月廿三日

十二月廿九日ヨリ翌年一月三日迄

旧曆正月元旦二日三日ニ換ル

鎮守祭典日 旧曆正月廿日 六月十五日 九月十九日

祖先祭典日 旧曆七月十四日十五日

壁切田植仕舞ハ各一日ツトス

二、奉謝ハ鎮守祭典日旧曆正月廿日ヲ以テ

鎮守道祖神稻荷神来ル十九年一緒ニ執行スルコト

但シ旧曆六月十五日ノ義ハ自今前日ノ神酒相廃止当日ノミ從

前二ヨルコト

三、子安神社ノ奉謝ハ旧曆二月六日執行シ前夜籠リト唱へ打寄義ハ自今相廢止

第三条 冠婚葬祭ノ事

一、婚姻ハ成丈ケ節儉ヲ加へ親戚及前後両隣限リニテ執行シ無益ノ奢侈ヲ固ク禁スベシ

二、従前紐解ノ祝賀スルトキハ贈答致シ来ル処、長次男女ヲ問ハス以後ハ贈答ハ勿論右祝賀スル等ニ托シ無益ノ飲食ヲ侷ムルコトハ一切之ヲ止ム、其他出産見舞ノ物品及春秋兩度各自祈念之際赤飯等ノ贈ハ之亦ム

三、又節句ト称シ陰曆三月三日五月五日七月七日八月一日九月九日義ハ明治六年一月第壹号布告ヲ以廢止ラレ候ニ付テハ確守スベキハ勿論之処、其習慣今ニ相止ス自今屹度確守スルコト

但シ本文確守スルニ付テハ上巳ノ雛端午ノ幟七夕ノ式紙短冊索牛等一切ノ虚飾イタシベカラズ

四、葬儀ハ一組合限リ執行シ無用ノ冗費ヲ一切相省キ執行中ハ堅ク禁酒ノコト

但シ組合限リニテ人員不足ナルトキハ隣組又ハ村内ヨリ依頼スルコト

五、左ノケ条ハ以後断然相廢止候事

一 従前新靈アルトキハ灯笼張ト唱へ陰曆七月七日打寄候事  
但シ庭中へ建設致シ来候高灯笼ハ自今建設セザルコト、尤寺院ハ此限ニアラズ

一 旧盆祭中棚題目ト唱へ新靈アル内へ内寄候事

但シ寺院へ打寄ルハ此限ニ非ラズ

一 祖先其他年回執行之度自宅ニ打寄セ題目相唱候事右固ク相守リ常々冗費ヲ省キ余口蓄積シ苟モ鬪村ノ安寧ヲ傷リ風儀ヲ乱ス等ノ儀決テ致間敷候、依テ一同署名捺印規約スル処如件  
十八年十月

第一式六号

勤勉貯蓄道路其他勸業上之儀ニ付来ル廿三日郡衙ヨリ主任官派出相成候条、右ニ付毎村惣代人組長并篤志之内両三名招集可相成旨被達候間得其意、同日午前第八時惣代人其他共一同当役場江出頭相成様取計被申度候、此段相達候也

明治十八年十一月廿日

戸長役場印

上布田村惣代人中

別紙之通り御達相成候間、則チ御回達候条回尾ヨリ御返戻ヲ乞

明治十八年十一月廿一日

惣代人

正副組長御中

道路掛御中

勤勉貯蓄盟約書

一 勤勉貯蓄ハ年ノ豊凶ニ関セス人類処世ノ要訣ナリ則チ業務ニ勤勉シテ物産ノ改良繁殖ヲ図リ日需ノ費用ヲ節省シテ余裕ヲ貯積シ隣保相助ケ各自ノ安寧ヲ保有シ資財ノ増進ヲ目的トシ左ノ條項ヲ確守履殘ス

第壹章

勤勉

第一條 毎日業務ニ服役スヘキ時限ハ左ノ如シ

但シ休暇日ハ之ヲ除ク

一自四月九日マテハ午前五時ヨリ午後八時ニ至ル

一自十月翌年一月マテハ午前六時ヨリ午後六時ニ至ル

一自二月三月迄ハ午前五時卅分ヨリ午後六時卅分ニ至ル

第二條 勤業時間中ハ漫ニ吹烟ヲ喫シ、雑談ニ耽リ又ハ職業ヲ離ル、等ノ所為ヲナス

第三條 休暇日ハ毎月一日十五日及大祭祝日鎮守并ニ祖先祭典日トス

但冠婚葬祭其他病氣及災厄ニ罹リタルトキハ此限ニアラス

第四條 常務ノ業ニ於テ若シ間隙ヲ来スカ如キコト有ルトキハ兼業ヲ求ス徒ラニ空手遊逸スヘカラス

第二章 節儉

第五條 冠婚葬祭ハ近隣十名区内ヲ以テ相□ニ饗応必ス一汁一菜ノ膳

部ヲ限

第六條 紐解帯立祝又ハ念仏題目講ト唱ヘ多人数ヲ聚集シ酒宴ヲ開設スルコトハ一切之レヲ禁止ス

第七條 冠婚葬祭等ノ飾其席ニ列シ又ハ補手タルコトアルモ其儀式ヲ了スルトキハ直ニ帰宅スベシ、但第五條ニ抛リ主ノ求メニ応シタルトキト雖モ長座雑談スル事ヲ禁ス

第八條 衣服ハ捻テ綿布ヲ用ヒ且虚飾ヲ属スル物品ハ身ニ着クヘカラス、但必用ノ物品ト雖モ決シテ奢侈ニ涉ルコトヲ禁ス

第九條 村内ノ冗費ヲ来スヘキ諸興行事ヲ開設スルハ勿論神仏参詣ト唱ヘ多人数打揃遊参スル等ノコト一切之ヲ禁止ス

第十條 諸勸化物賞ヒ其他糶売商等ノ需メニ応ス可ラス

第拾二條 全銀珠玉細ユノ煙草入烟管釵其他鼈甲櫛笄等ハ一切之レヲ

用フヘカラス

第拾三條 第八條第十二條従前ヨリ調ヘアル物品ハ之レヲ使用スルコ

トヲ得ヘシト雖トモ勿論新調スルコトヲ禁ス

第拾四條 身分ニ応セサル家屋ヲ新タニ構造シ又ハ家具ヲ備置等ハ一切之レアルヘカラス

第拾五條 無謂多人数打寄酒宴ヲ開設スルコトヲ禁ス

第三章 貯蓄

第十六條 此貯蓄ハ応分ノ力ニ任スヘシト雖モ予メ貯金額ヲ定メザレ

ハ終ニ盟約ノ効用ヲ収メ難キコトアルヘキヲ以テ其等差ヲ立ツ

一老等日掛一日金二銭 或八月掛金六拾銭

一弍等日掛一日金壹銭五厘 或八月掛金四拾五銭

一三等同上金壹銭 或八月掛金三拾銭

一四等同上金五厘 或八月掛金拾五銭

一五等同上金三厘又ハ四厘 或八月掛金拾銭

第十七條 貯金ハ町村組合区画ニ依リ委員一名ヲ設ケ委員ハ貯金台帳ヲ調製シ日々採集メタル金員ヲ記入シ貯金預付ケニ至マテ該金ヲ保管スヘシ

第拾八條 村内ニ委員長一名副委員長一名ヲ撰挙シ貯金預方及扨ヒ戻シ方等ノ管理ヲ請フヘシ

第十九條 日々貯金ノ採集方ハ組合内巡次之レヲ勤メ其日ニ組合委員ヘ交付スヘシ

第廿條 貯金ハ駅通貯金預所ヘ預ケ付ヲナスモノトス

第廿一條 貯金通牒ハ各自ノ名前ニシテ委員長之レヲ保管スヘシ

第廿二條 委員長副委員長委員ハ渾テ無給トス、但シ委員長不在又ハ事故アルトキハ副委員長之レヲ代フ

第廿三條 貯蓄ノ等級ヲ昇等セシト欲スルトキハ委員ニ申告シ台帳ノ変更ヲ求ムヘシ

第廿四條 貯蓄ノ等級ヲ維持シ難キトキ又ハ不時ノ災厄ニ遭遇シ貯蓄シ能ハサルトキハ隣保若クハ親戚ノ保証ヲ得テ其旨委員ヲ

第廿五條 貯金悉皆ノ払戻ヲ得ルハ左ノ事項ニ限  
一 全戸村外へ轉籍  
一 一ヶ月内ニ一家二人以上ノ死亡  
一 火災

第廿六條 左ノ事項ハ貯金額七分以内ヲ払戻スヘシ  
一 全戸村外寄留  
一 戸主及ヒ家族ノ長病又ハ死亡  
一 不慮ノ災厄

第廿七條 歳ノ凶歉ニ遭遇シタルトキハ村内ノ協議ヲ以テ別ニ払ヒ戻シノ手續ヲ定ムベシ

第廿八條 此貯蓄ハ明治十九年一月ヨリ向七ヶ年ヲ実行スベシ

#### 第四章 隣保相助

第廿九條 長病又ハ変災ニ罹リ一家ノ業務ヲ執ル能ハサルモノアルトキハ相互ニ隣保相助ケ家事百般ノ輔翼ヲナスヘシ

第三拾條 第二十九條ノ災厄ニ陥リ農業耕耘ノ期節ヲ失ヒ又ハ商機ニ遅ル、等ノ場合於テハ隣保申合セ必ス助力シ損失勿ラシム

ベシ

第三拾一條 私怨ヲ夾ミ隣保相助リルノ情誼ニ戻ル可カラス  
右條々村内一同盟約ヲ結ヒ必ス他日違反ナキヲ証明シ記名捺印候也

明治十八年十一月

国郡村

#### 第百二号

本年六月当郡衙山乙第五拾号ヲ以テ町村物産比較会準則ニ相達シ候該会趣旨タルヤ各自製作スル所ノ物産ヲ一定ニ陳列セシメ彼是相ヒ較シテ其優劣ヲ判定スルカ如キハ当業者ヲシテ一ハ競うフ心ヲセシメ一ハ彼ノ長ヲ採リ我短ヲ補フノ実益アラシムナリ、依リテ各自製作スル所ノ物品ハ可成多数ノ出品有之様懇篤奨励方可致候、就テハ目下收穫ノ際ニ付務而出品ノ手續ヲナシ被置度候、該会開設ノ期日モ追而相達シ可申候、此段相達候也

明治十八年十月十七日

戸長役場□

上布田村下布田村極楽寺村

右惣代人

正副组长

追テ出品目

一 水田米陸田米大豆ハ各一升

一 綿ハ一斤

一 畑草ハ百目トス

各種共引拔タル俣莖莖式株ヲ添テ出品スベシ

本月十一日第一三三号ヲ以テ当連合村物産比較会来ル廿一日ヨリ三日  
間開設、且ツ各村惣代人ヲ以テ比較品鑑定員ニ特撰候間、同廿一日午前  
第八時会場迄出頭候様附言ヲ以テ及達置候得共出品者者勿論可成各村  
方会場迄出頭縦覽候様致度、猶同廿三日賞品授与式執行候条、同日午前  
第八時会場迄出頭候様出品者へ達方取計度此段及達候也  
但シ出品ノ等差ハ投票ヲ以テ定ム、為念申副候也

十八年十二月十八日

戸長役場印

上布田村

極楽寺村

右惣代人中

組長中

但シ廻達之終尾方御返却有之度候也

小川弥三郎始メ

十九日午後二時披見

小川歌三郎送

議會之達

来ル廿二日通常会開会候条午前第八時当役場江出頭有之度候也

明治十九年二月十九日

戸長役場印

上布田村連合會議員

猪野多喜治殿

小川歌三郎殿

(朱書)同三月十六日集會村惣代井口久左衛門宅ニ而

本県甲第三十号達今回土地台帳調整ニ付地主惣代人ヲ撰挙投票之件  
右村惣代人井口久左衛門事故有テ自(辞職願亦々跡役撰挙申出候事二本  
日不参之仁モ大ニ有之間廿一日集會之上議決ニ及事ニ談合シ閉會之事  
十九年三月廿二日達戸長役場ヨリ

上布田村

猪野多喜治印

猪野勇次郎印

井口久次郎

小川歌三郎

右者本年本県乙第十一号ヲ以テ土地台帳調整之義被相達、之レニ先チ地  
押ヲ為スニ関ス地主惣代人投票為致候処、前記之人員当撰ニ付得其意  
来ル廿四日迄ニ請書可差出候、此段達候也

明治十九年三月廿一日

上布田村外八ヶ村

戸長役場印

丙第三七五号

地押取調方之儀ニ付テハ過般県官及ヒ当庁担当員出張模範村ニ於テ演  
習候得共引続着手其完了期日ハ近日ニ可有之、愈完了ノ上ハ本年県庁乙  
第三十号達第十條ニ依リ御報告可相成ル筈ニ候得共其以前ニ於テ一般  
完了ノ期承知致度義有之候条、各惣代ヨリ為申出来ル十五日迄ニ御報有  
之度、此段及御照会候也

明治十九年十二月十日

山辺武射郡役所第三科長小宮千蔵

明治廿年二月八日旧正月十六日二当ル、上布田村会猪野七郎右衛門宅ニ而

第一条 布告布達ハ其達之同毎ニ村内人民江無洩説為聞堅ク可相守事、

付タシ寄留籍之心得方出産死亡トモ右四ヶ条八十日以内ニ戸

長役工可届出事

第二条 農事勉勵之注意肥料トモ成丈ケ十分ニ入丹精可致事

第三条 種卸種揚ケ田植之事

三月廿四日 種卸 旧二月三十日当ル未彼岸ニ当ル

四月廿一日 種揚ケ 旧三月二十八日当ル

六月十日 田植 旧四月十九日当ル

同月拾六日 ツラシ植 同月廿五日当ル

第四条 鎮守奉社義十九年度同様之事、八幡神社、道祖神、稻荷神三社

一ヶ所ニ致シケケ所ニ而施行之事、右老戸ニ付金五銭ヲ為御酒

銭トシ差出ス事

五条 鎮守八幡宮大破ニ付營繕之事猪野多喜治申出シ候而猪野七郎

右衛門方發見ニ曰、村内モ當時節柄ニ付困難ト看覺致シニ付社

木見立テ払下ノ手續ヲナシ然シテヨリ取掛ル事

六条 村会並ニ道路普請ニ付村民至テ時欵ヲ失シ遅延且ツ不參ノ者

モ有之ニ付、是ヨリ番木ヲ補理シ、右鳴渡ルト一金貳拾銭ノ過

料金ヲ為差出セル事

右集会ニ相成后後ヨリ休暇ニ相成トス

祝融概論

夫レ祝融ハ宇宙間ニ於テ上ニ天子ヨリ下モ庶人ニ至ル迄一日モ缺ク可カラザル至大貴重ナル者ニシテ且之レヲ缺クトキハ五穀離獸虫魚皆以

テ生食スベク殆ント離獸ト数ヲ同シクス可ク若シ是レヲ冥々ノ内ニ点ズレハ則チ白昼ト同ジク其ノ功用ノ大ナル事拳テ論ズ可ラズ、又是レウイ苟且ニルトキハ昨日ノ大廈玉樓モ今日鳥有ニ属スルハ又祝融氏ノ業ナリ本村既ニ業ニ祝融氏ノ難ヲ蒙ル者少ナシトセズ、実ニ祝融氏ハ片時モ缺ク可カラザル貴重ナル者ニシテ其害ノ大ナル事又尤モ甚シ、本村此ニ共同一致シテ左之条々ヲ設ケ以テ祝融氏ノ不時ニ備ヘ是レヲ鎮護シト爾云

明治貳拾年

非常誓約規則

第老條 非常誓約中ハ必ズ老村連絡シテ現場ニ出張ス可キ事

第貳條 非常役員ハ頭取老名理事老名ヲ置リ

但シ任期ヲ二ケ年トス満期之后再撰スルヲ得

第三條 頭取ハ非常一切ノ事務ヲ総理スル者トス

第四條 理事ハ頭取ノ命ニ從ヒ消防方出發后自村ヲ警護スル者トス

第五條 人夫ハ必ズ頭取ノ命ニ從ヒ氣促ニ働ク可ラサル事

第六條 非常出發ハ雲龍水ヲ先トシ次ニ鳶人足ハ定メ前后スベカラサル事

但シ引取モ又同ズ

第七條 非常道具村内決議ニ凶リ是レヲ確忍不拔ノ人ニ預ケ置ク可キ事

事

發第八八号

虎列刺病予防ノ為メ土地ノ清潔ヲ要スル旨、今般別紙第百五拾七号ヲ以テ訓令相成候ニ付テハ、左ノ事項施行期日相定メ候条其意ヲ各村者一般

へ無洩相達、且当日惣代人ヲ始め組長ハ組内限り現場へ臨み苟モ病毒ノ媒介ニ可相成モノハ毫モ遣ス所ナク極テ清潔ニ致し候様精々注意スベク、尤モ施行ノ際ハ役場吏員ニ派遣候、右相達候也

明治廿年六月八日

戸長役場

一家屋の内外ヲ掃除セシムルコト

二下水溝渠ヲ浚ヒ濞路通セシムルコト

三下水溝渠ノ汚泥塵芥等ハ町村塵芥掃除又ハ健康上無実の地ニ運搬スルカ或ハ焼棄スルコト

四便所ニ掃除セシメ健康の推積セシメサルコト

五便器の破損スルモノハ此際修理セシムルコト

六飲料ニ供スル井戸の周囲ヲ掃除セシメ井戸浚ナサシムルコト

七区便所等の類ハ其持主ヲシテ充分ニ掃除ヲナサシムルコト

施行期日

六月十二日 上布田村 同 下布田村 六月十三日 雨坪村

同 極楽寺村 同 武勝村

但以後ハ

第一項ノ内ハ毎日、外ハ四九ノ日

第二項三項四項ハ毎日十カ目

第六項ハ四九ノ日ヲ以テ掃除セシムルコト

右村々惣代人

組長

中

訓令第七拾五号

郡役所

警察所

警察分所

戸長役場

土地ノ清潔ヲ要スルハ虎列刺病予防上緊急ノ要務ニ付客年中該病ヲ発生セサル町村ト雖トモ本年本県訓令第百壹号第一項以下第七項迄施行方右期日ヲ定メ郡役所警察所ニ於テ監督実施セシムベシ

但本文施行期日ハ郡長ヨリ知事へ具申スヘシ

明治廿年六月二日

千葉県令船越 衛

十一日朝六時ト心得候、井口久次郎、小川歌三郎出頭ニ而村内江右達シ

順回致し度由ニ付人名ヲ記載ス小川弥三郎始メニ而相回シ候

芝居興行願

東京四ツ谷区巳忍町拾三番地

森田錦芝事

十月十五十六両日

雨天日延

市川国三郎

一芝居興行

安政六年四月生

外六名

右者今般同郡上布田村三百八番地水原市郎左衛門方ニ於テ芝居興行仕

候間、御許可被成下度俳優觀察并ニ演題相添此段相願候也

右地主 水原市郎左衛門

明治廿年十月十二日

同村

東金警察署長

勸進元水原 岩吉

警部宮崎直候殿

前書之通願出ニ付奥印致候也

右上布田村外八ヶ村聯合戸長

猪野七郎右衛門



東第七拾五号

書面願之趣聞届候事

東金警察署長

明治廿年十月十三日

警部宮崎信明印

演題目

初日

一 忠臣蔵二段目 一同三段目 一同四段目 一同五段目

二日目

一同六段目 一同七段目 一同八段目 一同九段目

別紙之通り許可候条御取締御配慮相成度、尤別紙御覽濟之上八戸長役場

へ宛テ御遣し可相成、此段申達候也

印

右者別紙興行致此段御届申候也

明治廿年十月十二日

(上布田 猪野家 A・15・3)